

令和4年度第4回社会教育委員会議日本民家園専門部会 議事録

- 1 開催日時 令和5年3月26日(日) 10:00～12:00
- 2 開催場所 青少年科学館 2F 学習室3
- 3 出席者 委員 高橋部会長、大野副部会長、野尻委員、菅野委員、長谷川委員
入江委員、柴田委員、松本委員、佐藤委員、原田委員
事務局 澁谷園長、東担当係長、葉山担当係長、真保職員
- 4 議 題
令和4年度事業評価について
- 5 傍聴者 0名
- 6 会議内容
 - (1) 園長挨拶
 - (2) 会議成立の確認、資料確認
 - (3) 議事
大野副部会長：総入園者数と有料入園者数、それに伴う総入園料収入が、見込みよりも大幅に減っている。コロナ禍では野外博物館であるため、感染リスクが低いことが民家園の強みだったが、行動規制が緩和されたことにより、近場ではなく、遠くへ出かける人が増えたためと考えられる。Web サイトアクセス数と来園学校数は例年に近い数字となっている。一時的な傾向だと思うので来年度以降と比較した方がよい。
園 長：有料率が下がっているのはもうひとつ理由がある。今年度から蕎麦屋のみを利用した人数も入園者数に加算している。蕎麦屋に入るだけの場合、入園料をとっていないため、有料率にも影響が出たと考えられる。
菅野委員：資料記載人数には蕎麦屋の人数が入っているのか。
園 長：入っている。
野尻委員：藍染体験の参加者数が目標を達成しているが、伝統工芸館事業収入は下がっている。参加者数と事業収入の関係はどうなっているのか。
園 長：事業収入には体験料金のほかに、藍染製品の売上も含まれており、藍染製品の売上がいまひとつ伸びなかったためである。

松本委員：外国人入園者数について、目標が2000人に対し、2月末時点で3000人を超えている。インバウンドの需要が戻ってきたと考えられる。英語版Webサイトのアクセス数が前年度から倍増している事も同様の理由か。

園長：外国人がインターネットで民家園の情報を検索しているためだと考えられる。コロナ禍以前は外国人入園者数が多い年で7000人位だった。3000人でも昨年に比べれば伸びたが、まだまだであり、令和5年度は更に増えていくと思われる。

高橋部会長：3月から海外からの大型客船が入港するようになっている。4月以降も伸びると思う。

1 (1) 文化財の保存・調査研究の推進

大野副部会長：3の収蔵資料の整理については内部評価Cとしているが、大岡資料の追加受入は、大岡實先生の福島県南部の民家調査資料の一部が日本大学に残っていたのを受け入れた。計画になかったものを急遽対応したもので、大きな成果だと思う。

1、2の工事関係については、以前つけてもらったような工事の予定表がないと全体像が見えにくく評価しにくい。ぜひつけてほしい。

防火のガイドラインについては、昨年発生した国宝の神谷神社の火災は、落雷によって直接建物が燃えたのではなく、屋内の火災報知機が発火した。内部で火事が起きることも想定されることを職員に周知すべきである。

総合防災事業で地下を掘り返した結果、何がどういうルートで配置されているのかをまとめた資料を作成して出してほしい。何度も園路を掘り返さずに済むように計画したはずである。

園長：民家園は園路の下に何が埋まっているか、すべてまとめた資料が存在しない。総合防災事業の記録はあるが、それ以前の埋設物が一緒に出てきてしまうのが現状である。それらも含めた資料を作るのは難しい。

葉山担当係長：今後の課題として「老朽化設備の迅速な交換」とあるが、これは総合防災事業で10年近く前に設置した設備のことを指している。それがすでに老朽化してきており、防火指針の変更にも対応していく。

大野副部会長：総合防災事業の初期に設置したものが、更新、補修の時期になっているのか。

葉山担当係長：そのとおりである。園長の話の旧消防設備は、すでに機能していない、古い設備の一部がまだ残って埋まっていることを指している。当時、全部掘り返さないと古いものが撤去できない事情があったらしい。そのため、園路工事などで掘り返すと様々なものが出てきてしまい悩ましい状態となっている。

大野副部会長：予算要求の際に、既存のものを避けつつ更新していくため、単価が高くなるという説明が必要だろう。またその理由も何年もくりかえすのは難しいだ

ろうから注意した方がいい。

菅野委員：内部評価で C をつけた項目について、達成できなかった理由が、やれるはずだったのにやらなかったのか、コロナ禍などの外的要因によりできなかったのかによって評価が変わってくる。

園長：外的要因が理由でも、やらなければならなかったことだと考えている。諸事情により職員の人数が減り、思ったよりも仕事が進まなかったという理由はあるが、できなかったことはできなかったこととして、記録に残すべきだと考えた。

高橋部会長：内部評価が C なのは自分も気になるが、園長の説明のように「いろいろな要因でできなかった」ことを記録に残すことも大切だと思う。それらもふまえて各委員で判断してほしい。

柴田委員：山下家周辺園路排水工事について、工期延長となったが、佐々木家前の庭部分に雨の日には大きな水たまりができていて気になる。もともとはどのような予定であったか。

園長：2年間をかけて佐々木家の庭からトンネルまで行う計画であり、昨年度佐々木家の庭部分は完成する予定だったが、予算の都合で3分の1ほど残ってしまった。今年はその続きからトンネルまでを予定している。

柴田委員：雨が降っている日でも、来園者が多いことがある。足元が悪いのは心配なため早めに工事してほしい。

評価

① 文化財建造物維持管理の推進

令和4年度実績評価 A 9人 B 1人 C 0人

② 総合防災事業・耐震補強工事の推進

令和4年度実績評価 A 9人 B 1人 C 0人

③ 収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表

令和4年度実績評価 A 0人 B 2人 C 8人

野尻委員：①、②とも目標は達成しているが、Aの「目標を充分達成し成果を上げている」とまでは言えないのでBとした。

松本委員：Aが90～95点、Bが80点位だと思うが、Cとの落差がありすぎる。「取り組んだけれども未達だった」というのをCとし、それ以外をDとしたらどうか。

園長：評価は民家園のWEBサイトで毎年公開しており、見る人が年ごとの比較をする際に、評価段階の設定が同じでないとうっかりにくいので、3段階のままをしたい。Bが標準、それ以上がA、それ以下がCと考えていただきたい。

(2) 展示の充実

菅野委員：音声ガイドのタブレット貸し出しの実績はどうなっているのか。

東担当係長：年間で10人弱と思われる。年配の方々からは持つのが重いという意見もあった。

園長：タブレットの貸し出しは、炉端の会による団体ガイドがコロナのため休止している間のつなぎという位置づけである。コロナ対応は緩和されてきているため、5月頃から団体ガイドを再開する方向で検討している。今後は民家園の特徴である人と人との会話のなかでガイドをしていく形に戻していく。

菅野委員：年中行事展示の中で、供物などとしてその季節にはとれないものの模型が展示されているのが気になる。いつ頃の年代の再現かにもよると思うが、季節感を大事にしてほしい。

園長：年中行事展示を始めたのはかなり古く、それに先立って調査を行っている。いままでは様々な家のやり方を混ぜて展示していた。現在は主に北村家で行っているため、北村家のやり方を中心にして少しずつ見直していきたいと考えている。

高橋部会長：企画展における英語対応はAIなどを用いていきたいとのことだが、正確性についてはどのように担保するのか。

園長：事実上厳しいと考えている。現在、英文をパネル展示にはせず英訳シートの配布としているのは、修正などの対応がすぐに行えるためである。

高橋部会長：年中行事展示は、廃れた時期が行事によって様々なので、再現する時代を揃えるのは難しい。お断りとして、キャプション等に「〇〇市の〇〇地域で、〇〇頃までやっていたものを再現した」などといれたほうがよい。

評価

① 常設展示及び関連事業の充実

令和4年度の実績評価 A 0人 B 10人 C 0人

② 企画展示及び関連事業の充実

令和4年度の実績評価 A 10人 B 0人 C 0人

(3) 教育普及活動の充実

大野副部会長：以前大工入門講座を行っていた際に、木造の模型を組み立て、木組みの仕組みを解説していた。部材はまだ保存してあると思うので、それをうまく活用してはどうか。大学の協力を得て、学生にまず組み立て方を教えて、学生が練習した後に子どもたちに教える講座などを行うと、大学の地域貢献にもつながる。あの部材はまだ使えそうか？

園長：保管してあるため、活用はできると思う。

大野副部長：組み立ててみると家の基本的な構造がわかり、学生や子どもたちの勉強になる。また、原家にある継手仕口の模型をもう一つ寄贈いただけるかもしれない。2つあれば1つを子どもたちに触って組み立ててもらい、学生が教えるなどもできるだろう。検討してほしい。

原田委員：小中学生は GIGA 端末を持っている。端末の利用については、今年度何校が利用したのか。

東担当係長：具体的な数字は現時点では把握していない。見学で利用した学校が多かったと思う。

原田委員：子どもたちは GIGA 端末をととても上手に使いこなしている。GIGA 端末は園の WEB サイトを見るなど事前学習にも使えるし、園に GIGA 端末があるなら事前インタビューをする、見どころなどを確認するなどしてから来園することもできると思う。かわさき教育プランでは伝統や文化がキーワードになっている。民家園が近くにあると文化財の活用としてとてもありがたいが、GIGA 端末の活用についてはまだこれからなので、協力しながら推進・充実させていきたい。平中学校では、GIGA 端末を用いて給食センターの方へ生徒会の子がインタビューを行った。実際に現地に行かなくともやり取りができるものであるため、重宝した。

園長：GIGA 端末については、民家園に導入されたのはつい最近であるため、総合教育センターと相談しながら、今後の活用方法を検討していきたい。

野尻委員：GIGA 端末とは、タブレットのようなものを想定すればよいか。

園長：Chromebook である。

野尻委員：協力者会議とはどういったもので、開催されなかったのはなぜか。

園長：民家園に関わっている2つの大きなグループ、炉端の会と民具製作技術保存会の代表と民家園でディスカッションし、園をよりよくしていこうという目的で始まった会議である。今年度はコロナ禍や職員の体制により開催ができなかったが、それぞれの団体とは定期的に会議を行い、意思疎通はしている。

高橋部長：開催できなかったから内部評価を C にしたのだと思うが、それぞれの団体と意思疎通できているなら B でもよいのではないか。

園長：園の運営にとって重要な会議だととらえているので C とした。

野尻委員：今年度炉端の会の新規会員募集に応募したのはどんな人たちか。

園長：これまでは定年退職した人が多かったが、仕事をしている現役世代の方が増えた。

東担当係長：新規入会者は10月では3名、1月が18名であった。

野尻委員：藍染の出張ワークショップはどういったところに行くのか。

園長：昨年度は川崎の日航ホテルで行っていた。今年は特にそういった依頼がなかった。

松本委員：プロジェクションマッピングは中止ということだが、昨年度は広報も幅広く行い、一定程度の集客があったと思う。これは民家園にとってどの程度重要なイベントなのか。それによって中止の評価も変わってくる。

園長：中止については事業者側の都合である。もともとは市の経済労働局の予算で進めていた事業であり、プロポーザル方式で事業者を募り、昨年度は指定管理者の自主事業として行った。そのため市の職員はほとんど関与せず、指定管理者の職員中心だった。今年度も同様の形式で行う予定で人出の多い紅葉の時期に会場を空けておいたが、事業者側の諸般の事情で開催中止となった。

菅野委員：染織技術の研修というのはどこに行っているのか。指定管理者の管理事項なのか。

園長：そのとおりであり、研修先までは把握していないので、確認する。

柴田委員：炉端の会の会員はコロナ禍の間に約50名減少してしまった。園と相談した結果、新規会員募集を年4回行うこととなり、新規入会者が21名になった。また、土日は来園者が多いにも関わらず、これまで活動者が少なかったため、火焚き棟をあまり増やせなかった。今回、土日の希望者が多かったのがたい。また、園の様々な行事について炉端の会としては協力したかったが、今年度は依頼されなかった。現在は自主活動中のためだと思う。今後、感染症対策が緩和されていく中で、来年度はぜひ協力させていただきたい。

園長：5月8日に新型コロナウイルス感染症の取り扱いが見直される。炉端の会の活動もそれにあわせて見直していきたい。

評価

① 各種事業（講座・ワークショップ・催事）の充実

令和4年度実績評価 A 10人 B 0人 C 0人

② 学校連携の充実

令和4年度実績評価 A 10人 B 0人 C 0人

③ 市民活動団体との連携の充実

令和4年度実績評価 A 0人 B 10人 C 0人

④ 伝統工芸館・自主事業の充実

令和3年度実績評価 A 3人 B 7人 C 0人

2 運営・管理活動

（1）博物館経営の強化

菅野委員：博物館法改正により、国や都道府県教育委員会の努力義務である研修の対象者に学芸員以外の職員も含めることとなった。博物館関係の研修があれば、指定管理者の職員を含め、学芸員以外の職員にも積極的に研修を受けさせて

ほしい

高橋 部会長：博物館法改正にともない、博物館の再登録が必要になる。「今後の課題」欄に追加する方がよい。職員の研修、調査研究、デジタル化などもそれにあわせて計画に組み込んでいかなければいけない。

菅野 委員：登録先である市教育委員会の文化財課とよく相談して進めてほしい。

園 長：民家園は庶務系の係と学芸系の係が分かれていないため、大きなイベントなどの際には全員で行っている。このため、これまでも博物館職員向け研修に庶務系の職員を参加させてきた。今後も積極的にそうしていきたい。

東担当 係長：生田緑地で3月に市による博物館向け研修が行われた際には、指定管理者の職員も対象となり、民家園からも参加した。

高橋 部会長：国や県、博物館協会など外部の研修にも積極的に参加させてほしい。

菅野 委員：令和4年度計画欄に「YouTubeに民家園関連民俗映像記録を掲載(10本)」とあるが、実績欄にある「市民ミュージアム制作映像記録」のことか。

園 長：そのとおりである。民家園にかかわる映像記録を市民ミュージアムが16mmフィルムで撮影している。それをデジタルデータ化してもらった上でYouTubeに掲載し、園のWEBサイトにリンクを貼って、誰でも見られるようにしたい。データ化まではしてもらえたものの、所管局である市民文化局での手続きが終わっていないため、その後の作業が進められない。民具製作技術保存会による民具製作の様子なども記録されているため、動画の掲載ができれば市民サービスとしては有効だと思う。

評価

① 運営体制の整備・研修の充実

令和4年度実績評価 A 1人 B 9人 C 0人

② 広報の強化

令和4年度実績評価 A 0人 B 10人 C 0人

(2) 利用者の利便性・安全性の向上

大野副部会長：消防署との連携による消防訓練の実施については、4回とも消防署と連携したのか。

園 長：報告は毎回するが、実際に消防署に来てもらっているのは2回である。1回は消防車が来て放水訓練をした。もう一回は図上訓練として、消防の現場の担当者に集ってもらい、民家園の担当者とともに、どこが燃えたらどこに進入経路を設けるかといったことを民家園の地図を見ながら行った。

大野副部会長：神谷神社の火災の件を考えると、植物性の屋根については「破壊消防」という行為を行わなくてはいけない。民家園でも太田家の火災の後に、職員が屋

根に登り、ヘッジトリマーという植木剪定の道具を用いて、屋根を切断したり、とび口でえぐったりする訓練を行った。我々ができるのは初期消火の段階であり、燃えている箇所には水をかけて消火した上で、破壊消防をして消防隊を待つという想定であった。一方で、本格的に火がついた場合、どのように消すか、消防士も屋根の構造がわからないと消火がしづらい。三溪園では、檜皮葺きの屋根を工事する際屋根をめくる調査を行うが、構造がわかる段階で消防士に来てもらい、実際に見ながら構造を把握してもらった。民家園でも茅葺き屋根の工事の際に消防隊に見てもらったり図上訓練をしたりすることが重要だ。民家園のように年4回訓練をしている施設は少ないが、4回でも少ないというくらいの気持ちで取り組んでほしい。

菅野委員：奈良市消防局が檜皮葺きの屋根を再現したもので燃焼実験を行っている。そのときのデータが参考になると思う。

大野副部長：茅葺き屋根や板葺き屋根は葺いたばかりは燃えにくいだが、10年、20年経つと乾いてとても燃えやすくなる。こうしたことも知ってほしい。

野尻委員：神谷神社の火災では、神職が消防士に屋根を壊したりめくったりするよう伝えられたことで早く消火できたと聞いている。

柴田委員：来園者サービスについて、最近工事が多く、ベンチやトイレが使えないところが出て不足しがちである。来園者が増えれば休憩所はより必要になる。工事の際には仮設のような代替のものが設置されるのが望ましい。また、園路の危険箇所については記載があるが、古民家の床上にも板の間のクギが浮いている箇所など、怪我に繋がりがねない状態がみられる。炉端の会の日誌で必ず報告しているので、迅速な対応は難しいだろうが、修繕していただきたい。クギを打ち込むといった簡単な補修でも、炉端の会員などが対応してはいけないと聞いている。

園長：園内が広いので、炉端の会に見ていただくことはありがたい。報告を受けると、職員で対応できるものは順次対応している。ただし、職人を呼ぶ必要があるものは、ある程度まとまってから依頼するので、タイムラグは発生してしまう。

野尻委員：露天ベンチの改修とは、工務店などに発注するのか。

園長：職員で直せるものは直しているが、根元が腐食しているものなどは工事として、業者に発注して改修する。民家園ではこれまで景観への調和から、天然木を使用したベンチを多く置いていた。しかし、地面に接する部分が腐りやすいため、近年では樹脂製のものに置き換えている。

評価

① 来園者サービスの向上

令和4年度実績評価 A 0人 B 1人 C 9人

② 危機管理体制の整備

令和4年度実績評価 A 9人 B 1人 C 0人

(4) 報告事項

- ・川崎日本民家園運営基本方針について
- ・コロナの対応状況について
- ・次期指定管理について

(5) 今後の予定

- ・4月中議事録確定、評定意見作成依頼、メール等にて確認・修正、評定意見確定

以上について事務局より連絡。

<12:00 議事終了、閉会>